



波紋

発行所 教育活動総合サポートセンター
〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8
Tel 044-877-0553 FAX 044-877-0980
E-mail suporto731a@luck.ocn.ne.jp
URL <http://www16.ocn.ne.jp/~srmi/>

新年おめでとうございます



今年は巳年、蛇が冬眠から覚めて地上にはい出す姿を表しているとも言われ、「起こる、始まる、定まる」などの意味があるようです。サポートセンターも創立して10年目を迎えました。まさに、蛇にあやかり起こり・始まったサポートセンターです。今年は、これまでのサポートセンターでの活動を、充実させるとともに、さらに定着・発展する年にしなければならないと思っています。

新年の大きな事業の一つに文部科学省の委託研究「生徒指導・進路指導総合推進事業」の研究があります。副題を「福祉と教育の融合」としました。これまで、関係機関との連携や協働を中心とした取り組みは多くみられました。

サポートセンターでは、児童福祉法による「福祉の団体」として認められています。これまでサポートセンターと学校や各機関と協働・連携することで大きな成果をあげることができました。

さらに一歩すすめて、各機関でこそできること、その機関でないとできないことを明らかにした融合を目指したと研究を進めたいと現在取り組んでいます。



文科省委託研究：カリキュラム委員会

文部科学省の委託研究「生徒指導・進路指導総合推進事業」の研究の主体となっているのが、毎月、第1水曜日に行っているカリキュラム委員会です。

平成25年3月2日（土）に実施する、研究報告会にむけ、今回の研究のポイントとなる、「サポートセンターと他機関の融合に向けて」のテーマで取り組んできた実践を、各事例ごとにわかりやすくチャートとしてまとめ示すことにしました。

また、子どもの困り感や発達上の課題把握をチェックして、個々の子どもにあった特化指導プログラムを作成しました。この特化指導プログラムにそった日々の指導・援助の実践を通して、子どもの発達段階ごとの連携・融合のあり方探ることにしました。



第3回サポーター研修

1月行事予定



平成24年12月13日(木)川崎市教育会館で「第3回特別支援・教育活動サポーター研修」を行いました。次のような感想がありサポーターとしての成長に大変嬉しく思いました。

初めてサポーターとして子どもと接した時、授業中に授業とは関係のない話をされたり、廊下を走っている子どもにどう対応すればよいか、戸惑い迷ってばかりの毎日でした。注意をしなければと思うのですがなかなか声をかけることができませんでした。そこで、どんな場面でも自分から子どもたちへ声をかけよと決心しました。すると、子どもたちの様子が手にとるように見えてきて、子どもの行動の一つひとつに、その子どもたちの考えが隠れていることに気づきました。子どもが今考えていることや、困っていることを予想して関わると、どのような支援が必要なのか自然とわかるようになりました。このサポーターの経験を生かし、子どもや先生方に信頼されるサポーターになるよう努力します。

第9回役員会

平成24年12月(金)に川崎市教育会館で、第9回役員会を行いました。

話題の中心は、「認定NPO法人」化へ向けて現在取り組んでいる進捗状況で、大変ハードルが高く、認定がおりるのは2年先になる見通しのようです。



日	曜	主な行事
4	金	安全点検日 仕事始め
8	火	シニア卓球クラブ(青少年の家) 運営会議(南野川)
9	水	カリキュラム委員会(宮ノ下事務所)
10	木	お茶・お花(旭町) KYWC(青少年の家)
11	金	役員会(教育会館) 子育てサロン(南野川)
12	土	輝け☆明日の先生の会⑫ 調理実習(南野川)
13	日	エコチャレンジクラブ(青少年の家)
15	火	シニア卓球クラブ(青少年の家) おはなし会(青少年の家) 読み聞かせ(旭町)
16	水	学習・相談打合(宮ノ下事務所) こども探検クラブ(大山街道)
19	土	KYWC(青少年の家) 不登校・特別支援を必要とする親の 意見交換会(教育会館)
21	月	こども支援室定例会議(旭町) 中原区保護者ミーティング
22	火	シニア卓球クラブ(青少年の家) クッキング(旭町)
25	金	事務局会(宮ノ下事務所) KYWC(青少年の家) いっしょにあそぼう(南野川)
26	土	輝け☆明日の先生の会⑬
28	月	読み聞かせ(旭町)
29	火	シニア卓球クラブ(青少年の家) 第3回不登校対策連絡協議会 (川崎市総合教育センター)

編集後記

平成24年度は、文部科学省の「生徒指導・進路指導総合推進事業」の再委託があり、平成17年から始まった研究委託も、今回で7回めとなりました。

また、新たに、厚生労働省の貧困連鎖の防止対策のための援事業を、川崎市では健康福祉局生活保護・自立支援室が中心となり、川崎区役所田島支所、旭町子ども文化センターの2か所で10月から、「子どもの学習支援・居場所づくり事業」として始めました。現在川崎区の中3年生33人が毎日高校進学を目指して学習に取り組んでいます。

サポートセンターでの様々な事業を来年は、さらに充実させたいと思います。